

令和7年度ひみ未来づくりミーティング議事録（余川地区）

日 時	2025/8/27 19:00～
場 所	余川営農研修会館
出席者	30名 市長、政策統括監、総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、防災・危機管理監、消防管理監、地域振興課、地域担当職員
進 行	19:00～19:03 市長あいさつ 19:03～19:05 出席者紹介 19:05～19:38 市政の概要について（市長説明） 19:38～20:28 意見交換 20:28～20:31 閉会あいさつ 市長、地区代表

No.	質問の内容	回答
1	<p>■クマについて(1)</p> <p>全国で出没しているし、氷見でもたくさん出ているが、出てくる情報は出没情報だけ。一応ホームページには簡単な対策等はあるが、出会ってしまうと怖い動物なため、市民にどう対処するかや、どう出くわさないようにするかセミナーなどが必要ではないかと思うがいかがか。</p>	<p>■産業振興部長</p> <p>全国でも毎日のように出ている。クマの注意喚起等については、市の広報に特集を組んだり、防災メール、公式ラインなどでの周知をしたりしている。勉強会講習会などの実践的な部分については検討したい。</p>
2	<p>■クマについて(2)</p> <p>余川地内でも熊の痕跡や目撃が多くあり、先日も余川でも捕獲されたと聞いている。それについて市に問い合わせても、県の事業のため、個人情報かわからないということであった。</p> <p>私からすれば、せっかくクマが捕獲され、個人情報かわかるチャンスで、地域がどこまで危機感を持たなきゃいけないのか等、そういうふうなものが考察されるはずだがその情報が一つも得られない。</p> <p>当然地区の罝をかける地権者にも了解を取っていて、そういうふうな協力はしているため、県の方も情報公開など協力をしてもらいたいと思う。</p>	<p>■産業振興部長</p> <p>県の罝にかかったということは聞いている。捕獲に関しては公表していないということではあるが、地区住民が協力していることであり、市民を守るということでもあるため、強く県の方に働きかけたい。</p> <p>■市長</p> <p>全国的にも熊が出没し、状況に応じた対応が重要だと思う。最終的には市民の安全が一番だと思うので、捕獲情報の公表について働きかけていきたい。</p>
3	<p>■イノシシについて</p> <p>農作物被害等のイノシシ等の対策について、H28年度に優良活動表彰を受けた。その時に行っていたのは情報発信である。それが今はなくなった。市民に正しい情報を出すことが重要だと思う。</p> <p>先日、久しぶりに参加したが、話している内容は同じであったが、聞く人が変わっている。そのため情報発信を続けることが大事だと思う。ハクビシン等新たな被害もあるため、その情報を市民から得るという意味でも実施していただきたい。</p>	<p>■産業振興部長</p> <p>講習会を増やしていかなければならないと認識しており、回数を増やしていきたい。</p>
4	<p>■2拠点生活について</p> <p>2人の子供がいる。30年後、50年後、100年後のこの地区はどうなっているかと考えることがある。伺いたいのは、二拠点生活を希望される人や在宅勤務ができる方を誘致し空き家を活用する取り組みを考えてほしいということ。テレワークは雇用をこちらから生み出さなくてもいいので、もう少しこの働き方が広まってもいいのではないかと思う。</p>	<p>■企画政策部長</p> <p>移住の関係でIJU応援センターにおいて二拠点居住の話聞くこともあると伺っており、空き家や仕事の視点から、二拠点居住を定住につなげる取組も検討したい。</p>

5	<p>■テクノロジーの導入について 公共インフラにテクノロジーを導入してもらえないか。過疎地のインフラ整備や維持にコストがかかると理解しているが、一方でそのコストの財源が交付金等に長年頼ってきているということは、どの程度持続可能と言えるのか。こういった状況では、スマートシティ的な考え方がより説得力を持ってくると思う。例えば排水や水の調達等を各世帯で行えるようなテクノロジーで、数十年後を見越して、考えることも大切ではないか。</p>	<p>■企画政策部長 テクノロジーを活用していかないと地域の維持が難しくなると思う。例えば、公共交通で自動運転が可能になると、持続の可能性が高まるかもしれない。人口減少による課題を見据えて取り組んでいきたい。</p>
6	<p>■氷見市長選挙出馬に至るまでの心境について 富山県庁退職→氷見市長選挙に出馬、この間の心境はどのようなものであったか。一般的には役職は避ける傾向があるかと思うが、市長になられた経緯や思いはどのようなものであったか。</p>	<p>■市長 林前市長が病気で任期途中で辞職されるということを県職員の立場で知り、また、地震があったことも大きい。地震発生当日は私は氷見におり、翌日は新田知事と被災地である氷見を視察した。見慣れた風景が一変していたのを見て、氷見に何かしたいという気持ちであったので、県を退職し選挙に出た。氷見が好きで何とかしたいという気持ちで頑張っているのもまた力添えいただければと思う。</p>
7	<p>■市内の公衆トイレの在り方について 古い建物や不衛生な建物は見直すべきではないか。</p>	<p>■建設部長 都市計画課で清掃などを委託しており、使用頻度を踏まえ定期的に清掃している。よく使われる所は毎日行っており、2、3日に1回などの所もある。古いトイレについては、所在する地区などの関係者と話しながら対応を考えていきたいが、古いものを建て直すのは予算も時間もかかる。</p>
8	<p>■余川公民館への遊具の設置について 余川地区にも子どもがいるため、遊具を設置できないか。JA余川支所も近いうちに解体予定と聞いており、それも活かしてできないか。</p>	<p>■企画政策部長 地域で設置する場合には、余川では地域づくり協議会が設立されており、おらっちゃ創生支援事業では10分の10で上限が100万円の補助がある。維持管理についても地域づくり協議会の運営費50万円の補助を使っていた。</p>
9	<p>■過疎化に伴う地域バス運営の赤字対策について 人口減少に伴い地域運営バスの会員が減少し、経営が厳しくなっていく。今後の対策は。</p>	<p>■企画政策部長 現在、地域の足の確保として、余川谷も含め6路線の地域運営NPOバスが運行され、運行費の6割を市で補助している。昨年1月には運行している3つのNPO法人が集まり、基本方針をまとめ、それに基づき取組を進めている。デマンド運行を行い、事務の共同化も進めており、3つの法人が共同で事務を行うことで、持続的なバス運行につながる。今後も持続的な運行ができるようサポートしていきたい。</p>

10	<p>■高齢者が車を持たなくても暮らせる地域づくりについて 移動販売車などを活用し、週1～2回地区を巡回して食料品などを届けることで買い物難民が誰1人いない地域づくりができるか。</p>	<p>■市民部長 高齢の方が移動手段を持たないことで起きる不都合さは医療機関への受診や買い物、引きこもり、社会的孤立のリスク等がある。買い物支援については、余川ではNPOバスがあるが、買い物に行けない方もおられるので、移動販売車など、その人のニーズに寄り添った取組を検討することが重要である。また、医療受診については、受診が困難な方には、訪問診療などでの対応が可能かと思われる。 市では、単身もしくは家族のみで生活することが困難な方々を対象に、各地区社協が中心となって、地域住民自らが、見守り等の生活課題解決に向けた取組を行うケアネット活動に取り組んでいる。令和6年度は市内全域で、838人を対象に2,036人の方のご協力のもと、ケアネット活動を行った。余川においては37名の対象者に対し105人の支援者の方に活動していただいている。 これらの協力を得ながら高齢者の生活を支援してまいりたい。</p>
11	<p>■商店がなくなった地区における市によるコンビニ店舗運営について 余川地区に商店がなくなった。例えば、(株)ローソンによる、山梨県南都留郡道志村で村営の地域共生コンビニ「ローソン道志村」がオープンした事例を参考に市によるコンビニ店舗の運営はできないか。</p>	<p>■企画政策部長 例を調べたが、店の建設は市で、経営は民間であった。お店は経営が成り立たなくては持続性がない。現在も知らない間にコンビニがなくなっているのはよくあることで、利用されないと閉店となるため、現状を考えると運営は難しいのではないかと思う。</p>
12	<p>■義務教育終了後の支援や補助の充実について ひとり親家庭や低所得世帯以外にも、義務教育終了後の学習用端末購入費や通学定期券費用などの支援はできないのか。</p>	<p>■市民部長 子育てに係る経済的支援として児童手当の制度が拡充されている。所得制限が撤廃され、支給期間を中学校卒業から高校生年代までに延長された。就学と直接関係ないが医療費の助成対象も高校生年代まで拡充している。 ■企画政策部長 今年度から若者が住んで活動してもらうために、氷見から大学等に通う方に対し、通学助成を行っている。</p>
13	<p>■氷見高校以外へ進学した生徒への援助について 氷見高校の生徒は、オープンキャンパスへの補助があると聞いたが、氷見高校生以外への補助はないのか。</p>	<p>■企画政策部長 名城大学との連携の取組の中で、氷見高校生のみならず、市内の高校生の名城大学のオープンキャンパスへの交通費の一部を助成している。</p>
14	<p>■安心して子育てができる地域づくりについて 安心して出産、子育てができるように産院を増設できなにか。</p>	<p>■市民部長 現在、市内に産科のクリニックがあり、産科医の確保や現在の出生数などから産院を増やすのは難しいと考えられる。</p>

15	<p>■大企業の誘致について 若者が働きたいと思える企業を誘致してもらえないか。</p>	<p>■産業振興部長 大企業の誘致については、4月に記者発表があり、日本ゼオンにおける増設が予定されているが、今後、労働力の確保が難しく、誘致が難しくなると思う。その一方で大企業に限らず、若者や女性の就職先として人気の高い業種の誘致について、余地は十分にあると思っている。情報収集や企業訪問等を引き続き行い、サテライトオフィス開設事業補助金や女性が輝くオフィス進出促進事業補助金、そして若者女性が活躍する企業作り支援事業補助金などにより、市外から進出する企業を支援している。</p>
16	<p>■防災行政無線について 防災無線が聞き取りにくい。</p>	<p>■防災・危機管理監 防災行政無線については音達調査を行い、設置しているが、聞き取りにくい対策として、LINEやケーブルテレビでの発信やテレフォンサービス、防災ラジオの配布などを行っており、自助共助の観点から近所の人同士で情報を共有してほしい。</p>
17	<p>■谷ごとの強みについて 余川に越してきて5年経つ。子育てに特化したお店をしているが、来店客数は市内飲食店すべて苦しい状況だと思う。氷見市を外から見ると道の駅や芸術文化館で観光は完結してしまう。氷見は谷ごとで特色が出せると思っていて、余川ならワインづくりなどがあり、市で谷ごとの強みなどを発信していただければいいと思う。</p>	<p>■企画政策部長 それぞれの地域の特色や特産物などをどのように強みを活かしていくかが大事で、番屋街に120万人ほど来ているということを活かすことが大切。各地域から持って行ってどう売るかという連携も大事だと思う。日本全体が人口減少していく中で外国の人に来てもらえるようにすることも大切で、新幹線から城端氷見線、そして氷見駅から番屋街などへのアクセスをどうしていくか考えていきたい。</p> <p>■市長 人口減少の中で地域の活力を活かすことが重要。谷ごとのアピールは重要だと思う。そういった視点で考えていきたい。</p>